

しらかわの 身近な文化財

第二十五話
民具（農具）

民具とは、私たちの日常生活の中で用いられる用具や造形物などを広く指す言葉で、人びとの生活と切り離すことができないものです。

今年、新一万円札に採用されて話題となった渋沢栄一の孫、渋沢敬三（1896～1963）は民具研究の第一人者であり「民具」という言葉の名付け親とされています。

敬三は多くの地域を調査し、民具が人びとの暮らしぶりを明らかにするための重要な資料であることを示しました。

民具の例として、農作物を育て、収穫するために使われる農具があります。特に白河地方は昔から米づくりが盛んだったため、さまざまな古い農具が残されています。写真は白河の農家で使われていた唐箕という農具で、全長1.5m、高さ1.2mほどあります。秋

に田んぼから収穫し、脱穀をした米を選別する作業に用います。横に付いているハンドルで中の風車を回しながら、もみ殻などが混ざった米を上から注ぐと、米よりも軽いもみ殻やちりなどが風の力で吹き飛ばされます。

唐箕は江戸時代から近代にかけて普及し、各地の農村で見ることができました。しかし、現代では電動の機械に作業が集約されたため使われなくなり、その用途を想像することすら難しくなった民具のひとつといえます。

暮らしの中で用いられる道具は時代によって移り変わり改良、あるいは刷新されていきます。人びとの記憶とともに蔵や納屋に眠る古い道具には、先人の生き様を知る手がかりが残されているのです。

文化財課 ☎2310



▲唐箕
(歴史民俗資料館所蔵)



昭和三拾年度
旧拾月廿四日
代金拾圓五拾錢也
渡辺氏

墨書から、唐箕の購入日や代金がわかります。



高齢者 あったか広場

Vol.68

☎高齢福祉課高齢者支援係 ☎285519

認知症の方への対応のポイント

- **まずは見守る**
さりげなく様子を見守りましょう。近づきすぎたり、じろじろ見たりするのは禁物です。
- **余裕を持って対応する**
周りの困惑や焦りは相手にも伝わります。自然な笑顔で対応しましょう。
- **声を掛ける時は一人で**
複数人で取り囲むと恐怖心をあおりやすいので、できるだけ一人で声を掛けましょう。

- **後ろから声をかけない**
認知症の方は視野が狭いと言われています。背後からの急な声掛けは、相手を驚かせてしまい、転倒の恐れがあります。
- **目線を合わせ、優しい口調で**
相手が小柄な場合は、目線を同じ高さにして対応しましょう。
- **穏やかに、はっきりとした話し方で**
特に高齢の方は耳が聞こえにくい場合も多いので、ゆっくりとはっきりとした話し方を心掛けましょう。
- **相手の言葉に耳を傾け、ゆっくりと対応**
認知症の方は急かされるのが苦手です。反応をうかがいながら会話をしましょう。

誰よりも苦しみ、悲しんでいるのは、症状が現れた本人です。相手の感情を傷つけずに接することが大切です。

